

極秘

自昭和十六年十二月一日
至昭和十六年十二月三十一日

砲艦正生丸戦時日誌

第十三砲艦隊

本年十一月五日當隊ノ指揮下ヲ離レ南支
部隊厦門方面特別根據地隊司令官ノ
指揮下ニ入ル

正生丸

目次

- 一 經過
- 二 令達報告等
- 三 參考
 - (一) 諸調査事項
 - (二) 戰訓
 - (三) 寫真
- 四 作戰經過概要



一 經過

一 一般情勢

宣戰布告前ニ於ケル第三國船ノ支那沿岸航行ハ英米人
 上海引揚下相挨ツテ最近稀ニ頻繁トナリ大型兵米蘭ノ
 汽船ヲ見受ケ十二月五六日頃ハ上海脱走ノ英國籍船ノ
 香港方面ニ航海スルヲ認メタルモ布告ト同時ニ拿捕又ハ
 香港封鎖ニヨリ爾後ニ於ケル支那沿岸ハ專ラ吾ガ海陸
 運送船ノ独舞台トナリ我ガ先ニヨル密輸入モ其ノ牙城ヲ
 失ヒ殆ド影ヲヒソメ沿岸封鎖ハ完璧トナリタリ
 然ルニ開戦以來影ヲヒソメ居タル敵潜水艦ハ十二月二十日
 二十七日ノ兩日ニ亘リ香港東南方海上ニ出没シ交通破
 壞ノ舉ヲ出テ吾ガ特務艦。其ノ犠牲トナリタル事實ニ徴シテモ
 南支一帶ノ航海ハ相當危険ニ直面スル如クナレリ

三 敵軍の情勢

支那中央軍の情勢

吾が福州撤退直後中央軍ハ和平救国軍ヲ本土ヨリ避遠
 島嶼ニ退走セシメ本土沿岸一帯ニ播磨蠢動シ吾ガカ勢ハ艦艇
 港灣避泊ニ際シテハ屢々之ヲ反撃スルノ舉ニ及ビツアリ
 而モ對英米ノ宣戰布告ハ呼應シテ艦々其ノ虚勢ヲ張
 味占領地港灣附近ニ強靱ナル防禦陣地ヲ構築シ
 一見邑村ノ保安隊ノ如クヨソホヒ見張監視所ヲ設ケ
 嚴重ニ吾方ノ動靜ヲ見定メ後方ニ連絡シ居ルモノ如シ
 尚密偵ノ情報ニ依リ南澳島ノ對岸附近ニ約二千名
 ヲリ成ル部隊ノ増派ヲシ機ヲ窺ヒ同島並ニ汕頭ヲ奪
 取セント企テ居ルモノ、他ク他方碇石灣頭(烏嶼港至碇石港
 一帯)ニ相當兵力ヲ有スル部隊ノ駐屯ヲ認メ紅海灣

内(北尾至徳宮)ニ機銃三小銃多数ヲ有スル支那兵
ノ有ルヲ探知セリ(附近在住奥民ノ言ト符合ス)
西(英米軍)ノ情勢

吾ハ海陸ノ猛攻ニ依リ要塞香港島ヲ開闢シ僅カ旬日ニシテ
我ガ方ニ帰リシ完金ニ又那ノ沿岸ノ海上ヲ制覇スルニ至リ
タルモニ十六、十七日ニ日ニ日リ敵潜水艦ハ香港島ノ東方海上
ニ出現シ不^レ幸持務艦ハ其ノ攻撃ヲ受テ了^レタル事ノ實アリ
香港附近ノ機銃ノ種類亦完成ニ至リ海遊機雷ノ危
険亦甚^ク甚^ク注意ノ要スベシ

(三) 任務編制配備

(一) 碓石灣(前進補給基地)及同灣以北兄弟嶼迄、補給路、

警戒敵性商船 拿捕戎克、掃蕩

(二) 支那方面艦隊南支部隊廈門方面部隊南監視部隊

(三) 十二月三日迄ニ配備ニ就キ監視警戒ニ任ズ

碓石灣(補給船同灣ニアル場合)及同灣ヨリ兄弟嶼ニ至ル沿岸

補給路ヲ監視警戒ス

(四) 作戰指揮

(五) 戦備及改策事項

臨檢戎克等

正生丸	✓	汽船
EDITH MOLEK	英國船	第三國船
TAIKO	總領事二〇三噸	汽船
LICH SHIN	九噸運力七節	戎克
右	英船八拿捕	記
公		事

三令達報告等

発日時 元時	受日時 元時 (通報)	令達報告等	種別
<p>一日 南支部隊 指揮官</p>		<p>機密南支部隊命令第十八號 南支部隊命令</p> <p>英國米國蘭國ハ極東兵カウ逐次増加シテ對日 包圍戰ヲ繰化シツシ經濟封鎖ヲ断行シ且重慶 政府ノ抗日戦カラ補強シテ帝國ヲ消耗戰依 リ壓伏セシメント策シツカリ</p> <p>帝國ハ自存自衛ノ爲メ右三国ト開戦スル決リ (以下省略)</p> <p>機密廈門方面部隊命令第七號 廈門方面部隊命令</p> <p>對米英蘭開戦ニ伴フ兵ヲ部署各部隊 ノ行動通信補給味方差別等(以下省略)</p>	<p>文書 文書</p>

一日
廈門方面
部隊指揮官

一日
南支部隊
指揮官

発日時
元時

受日時
元時
(通報)

令達報告等

種別

<p>百 廈門方面 部隊指揮官</p>	<p>五日一三〇。</p>	<p>機密廈門方面部隊命令第八號 廈門方面部隊命令 廈門方面部隊の定作戦通信隠語(省略)</p> <p>文書</p>
<p>五百一三〇。 南支部隊 指揮官</p>	<p>五日一二四。 南支部隊</p>	<p>本電至急通信 南支部隊電令第二七號 事能心緊迫セ 速ニ作戦準備ヲ究メ スルト共ニ英米ノ奇襲ニ對シ警戒ヲ 嚴ニスベシ</p> <p>無電</p>
<p>五日一五〇。 廈門方面 部隊指揮官</p>	<p>五日一六三。 廈門方面 部隊</p>	<p>廈門方面部隊電令第八號 事能心緊迫セリ 英米ノ奇襲ニ對シ 警戒ヲ嚴ニスベシ</p> <p>無電</p>
<p>五日一五三。 南支部隊 指揮官</p>	<p>五日一八二。 南支部隊 (需要東沙島 派遣隊)</p>	<p>南支部隊の機密ニ七六番電 當分ノ間作戦地ニ任艦船ノ奔着電 報ノ特ニ要アル場合ノ外発信セヨコト</p> <p>無電</p>

<p>五日一七三〇。 南支那部隊 指揮官</p>	<p>七日一五三〇。 一三三號 艦長</p>
<p>五日二〇二 南支那部隊</p>	<p>七日一七三〇。 南支那部隊 指揮官 厦根司令官</p>
<p>コトニ定メラル (閉送電報) 南支那電ニ七六番電報電ス 當分ノ間作戦地ニ在艦船ノ發着 電報ハ特ニ必要ナル場合ノ外發信セテ ルトニ定メラル</p>	<p>六日二二〇。遮浪角東方三。湮ヲ哨戒 中運油船一及運油船(オイルバージ) ヲ支航中、英國汽船EDITH MOLLER 號ヲ発見仕向地香港ナルヲ確認、上 直ニ湯石灣ニ嚮導シ七日〇ニ。投錨セシ メタル後一一〇。拿捕完了セリ 拿捕船要目左、如シ EDITH MOLLER 總噸數六四六二五噸 載化員丁シ、乗員三六名</p>
<p>無電</p>	

八日。三一。

南支部隊
指揮官

八日。六三。

20
參謀長

八日。九五。

南支部隊指揮官

八日。四三。

南支部隊

支那方面
司令官

(司令官
部長)

八日。一五。

南支在勤
官

廣州灣在勤
武官

八日。三三。

南支部隊

(内諾一露ニ支那三三)

運油船「TANISHI」九一噸七節

乗員載貨トシ

運油船「TANISHI」三噸乗員載貨トシ

武力行使發動

本朝英米ニ對シ武力行使發動セリ

米國ニ對シ閣議ニ決令セリ

。四一五

八日二〇三。
一三三號
汽艦長

九日一九二。
南支部隊
指揮官
廣根司令官
時司令

戰聞概報

一 開始前、態勢
 本艦碇石灣、南支、度西一六〇ニ於テ
 敬言泊中十二月八日拂曉ヨリ国籍不明
 ナル大発型發動機船本艦ヨリ距離約
 八五哩、全湾西岸ニ接航シ北航セルヲ
 認メタルモ海上稍濛氣アリ視界不充分
 ナリシタメ動靜不明トナリタリ
 本艦遠浪再燈台接收ノ目的ヲ以テ
 二三。抜錨航行中一ニ。碇石灣北湾頭
 烏撤港東方一哩、碇泊セル前記發動
 機船ヲ認メ直ニ豫定ヲ變更一ニ五六烏
 撤港南方(金廂角)南八。度西ニ五〇。米
 ニ投錨シ戰鬥ヲ令ス當時接近セルニ從ツテ

無電

該發動機船八束方ニ遊航坐洲ニ或クニ
依リ急據塔載貨物ノ揚陸ニ着手セルヲ
認メタリ

二一三。五發動機船並ニ附近ニ伏在セル敵
ニ對シ威嚇射撃ヲ敢行敵ヲ沈黙セシメ
一三三。星兵曹長ノ指揮セシ十二名ノ陸戰隊
ヲ本艦内火腰ニ乘艦セシ該發動機船會
捕ニ赴カシメタル所發動機船ニ接近スルヤ敵ハ
急激ナル掃射ヲ以テ之ニ抵抗シ来ル
為メ陸戰隊直ニ應戦シ共ニ本艦ヨリ艦尾
接護射撃ヲ以テ應戦シ十分ニ敵ヲ鎮壓
セシメタリ

三彼我ノ損害等

本戦事ニ於テハ敵ノ損害ハ明細ナラザルモ
附近村落ノ破壊敵件地ノ破壊相當ナル

モノト認メタリ

我々方左記戦死傷者ヲ告セリ

戦死 海軍三等水兵 武田吉四郎 (三三九)

福島縣安達郡三井村宇山口 三五

横徹水四九六八(前胸部首管銃創心臓損傷)

重傷者海軍三等水兵 中田定一 (三三九)

静岡縣熱海市伊豆山 六三七

横徹水五二四二(右胸首管銃創同于背)

擦過銃創貴要血管神經及骨ニ損傷ナシ

全治見込約六ヶ月

四、消耗彈特減彈一、發小銃三、發

九日一五〇〇
南支部隊
指揮官

九日一七二〇
厦門方面部隊
南支部隊
一三三號艦艦長
廣東方面特別
飛機隊司令官
南支部隊
監視部隊

五敵情

金相再至馬撤角六〇〇米海岸線高豆
強執アルトトカ陣地構築シ其兵力約
一〇〇名ノ中央軍ト認ム

突鬼ヶエツコ機銃約五台其他小銃約五挺
六兵眷數損

銃剣一 秒時計一

南支部隊電令第三五號

一東照丸哨區ヲ撤シ南明島ヲ抑留中
パナマ船一ヲ後領ノ上湯石灣ニ回航同地ニ
抑留中、商船曰ク正生丸ヨリ引
後計五隻ヲ厦門ニ護送シ之ヲ復根
引渡シテ後送カ哨區ニ帰被スベシ

無電

<p>九日二六〇 南支部隊 監視部隊</p>	<p>一日二〇一 南支部隊 指揮官</p>
<p>九日二二四 南支部隊 指揮官 三三掃院艦長</p>	<p>一日二二五 南支部隊</p>
<p>三廈根司令官笠島ヲ燭石灣ニ派遣石 護送作業ヲ援助セシムベシ 本日雁ヲ發見ノ新華(船客 載貨ナシ)ノールウエー(船客 貨香港日印荷段白米一四〇。俵薪炭 三五。俵其他多數)計ニ集令ヲ捕燭石灣 ニ抑留處分ナスコトニ正生丸ニ依頼セリ</p>	<p>南支部隊電令第四ニ辨 一香港内部ニ暴動勃發混乱状態ニ陥レリ トノ情報アリ ニ今夜敵艦被脱出ノ虞アリ各隊警戒ヲ 嚴ニ之ガ捕捉撃滅ニ努ムベシ 三進撃部隊ハ速カニ進撃トスベシ</p>
<p>無電</p>	<p>無電</p>

<p>一日二〇一。 南支部隊 指揮官</p>	<p>二日一五〇。 南支部隊 指揮官</p>
<p>一日三二四 南支部隊</p>	<p>二日二一五 厦門司令官 (三三島艦長) (三三島指揮官)</p>
<p>四、甲監視部隊八橋杆水道東口乙監視部隊 八馬尾洲燈台北方水道至南大澳水道入口 ニ在リテ監視ヲ嚴ニスベシ 五、五十鈴八馬尾洲燈台ノ東南方ノ埋附近、 梅八大橋尾水道南口附近ニ在リテ警戒ヲ任ズ</p>	<p>南支部隊電令第四五號 南支部隊電令第三三號ニ依ルル柳留商 船ノ碇石湾ヨリ厦門迄ノ護送ニ関シ 左ノ通り定ム厦門方面部隊指揮官ハ 正生丸空島ヲ以テ東照丸ヲ援助セシメ度 護送作業ヲ海員施セシムベシ 厦門方面部隊電令第一二號</p>
<p>無電</p>	<p>無電</p>

二日二一〇。
厦門司令官

三三島艦長
三三島指揮官

無電

無電

無電

一九三〇
支那方面艦隊
司令長官

一九二五
南支那部隊
指揮官

南支那部隊
司令長官

海軍警備隊
長官

南支那部隊
附屬部隊
司令長官

海軍大臣

軍令部總長

支那方面艦隊
司令官

吳鎮長官

三浦隊長官

此隊長官

正生丸等島嶼南支那方面艦隊司令第四五
聯作業ヲ豫覽スル

支那方面艦隊司令第七六一號

敵國船舶ヲ追ハシテ捕ムルノ事ニ付テハ
船中ノ人員ハ一ノアテマラ
ホシゲヌラスリハドルニカラク下ニスルナリ
ドミニカ

南支那部隊司令官
十二月二十日附南支那方面艦隊司令第四五
補給部隊ヨリ
公ニ回航スル

無電

0529

<p>二十日 一七〇〇</p> <p>支那方面艦隊司令長官</p>	<p>三二日</p> <p>南支那艦隊指揮官</p>
<p>支那方面艦隊</p>	
<p>支那方面艦隊司令官(第一号)也</p> <p>敵国ヲ本艦隊ニ對シテ國六ナクモタリカ、</p> <p>ニナラザ、イナクモスガ、マラ、ドモニリモナク、</p> <p>ハナク、</p> <p>六敵向船艦艦隊ヲ本艦隊ニ對シテ中ニ有リ、</p> <p>丁國在國ニ在リ、</p>	<p>撥署南支那艦隊司令官(第一号)也</p> <p>南支那艦隊司令官</p> <p>一南支那艦隊司令官(第一号)也</p> <p>二本艦隊司令官(第一号)也</p> <p>特令(第一号)也</p>
<p>無電</p>	<p>又書</p>

<p>二五日 二五四。 南支部隊 指揮官</p>	<p>二七日 一〇三七 南支部隊 指揮官</p>	<p>二七日 一三四。 南支部隊 指揮官</p>
<p>二六日、九時 南支部隊 支那方面 艦隊司令官</p>	<p>二七日 一三四 南支部隊 支那方面艦 隊司令官</p>	<p>二七日 一五四 夏根司令官 正生丸 笠島指揮官 香推艦長 南支部隊</p>
<p>南支部隊電令第六七号 一 敵ハ一九三〇全面的ニ降伏セリ 二 香港島ニ對スル攻撃ヲ停止スミシ 三 進撃部隊ハ香港島内ニ進入スベシ 無電</p>	<p>南支部隊電令第七四号 南支部隊兵力部署中 廣東方面部 隊ヲ香港方面部隊ニ改ム 無電</p>	<p>野島遮浪角南方一五哩附近ニテ敵 潜水艦、攻撃ヲ受ケ浸水大ナリ 笠島ヲ同地奥ニ向ケ急行セシムベシ 無電</p>

<p>二七日一六〇。 一三三號艦長</p>	<p>二七日一六五八 厦根司令官 野島指揮官 20F 多謀)</p>	<p>一三三〇 (20F 多謀) 地真ヲ水雷艇ノ護送ニ依リ特務艦(進路。七〇)ノ東航セルヲ認ム本艦ニ何等ノ信號ナシ</p>	<p>無電</p>
<p>二七日一八三〇。 厦根司令官</p>	<p>二七日一八五四 一三三號艦長 南支部隊 監視部隊 野島指揮官 20F 多謀)</p>	<p>厦門方面部隊電令第一三號ノ一三三號艦ハ野島救援ニ急行ス</p>	<p>無電</p>
<p>二七日一九〇〇。 一三三號艦長</p>	<p>二七日一九三五 厦根司令官 野島指揮官 20F 多謀)</p>	<p>野島ハ汕尾頭西方三哩(波浪角西一五哩)ニ避難中至急末援ヲ要ス</p>	<p>無電</p>
<p>二七日一九三〇。 一三三號艦長</p>	<p>二七日一九三五 厦根司令官</p>	<p>一九三〇汕尾頭着野島警戒救援ニ急行ス</p>	<p>無電</p>

<p>二七日 二三三〇 南支部隊</p>	<p>二七日 二三三〇 一三五艦長</p>	<p>香桂艦長 野島指揮官 二八日 〇三四三 廈門方面部隊 指揮官 二八日 〇三三七 廈門司令官 （参謀）</p>	<p>二八日 〇三五五 汕頭派遣隊 指揮官 （厦根参謀）</p>	<p>野島目下水深九米ノ所ニ生洲ニアリ 詳細後報ス 南支部隊電令第七六號 厦門方面部隊指揮官ハ野島ヲ應 急修理ノ上馬公警備府ニ護送スベシ 本艦機密第一番乗組員依リ補給ハ都 合ニ依リ當分ノ間取止メトス</p>	<p>野島坐洲後ノ状況左ノ如シ 一汕尾頭西方ニ埋ノ水深九米ノ泥土上ニ艦 中央部迄坐洲居ルモノ、如クニ番艦ハ 上甲板下一米迄浸水ス</p>	<p>無電</p>	<p>無電</p>
--------------------------	---------------------------	---	--	---	--	-----------	-----------

二八日〇九三〇
厦根司令官

二八日〇九三〇
三三九艦艦長
笠島指揮官
協成九指艦官

二一番倉及正室ニ自カニ排水可能ナル
程度ニ浸水中

三積荷石炭三〇〇噸人命異狀ナシ

四二番倉ノ破口並ニ亀裂大ナル屬應急
修理不能排水ノ見込薄ニ番倉ノ

石炭較載ノ爲適當汽船ノ救遣ヲ

要ス較載後ノ補修材ニ強大ナル
長円材ヲ必要トス

五笠島ノ乗換ヲ待テ明朝ヨリ援助
作業ヲ開始スル豫定

六馬公ヨリ二十五名ノ専門家乗換予定

七警備異狀ナシ

厦門方面部隊電令第一四聯

南支部隊電令第七六聯依ル救難及

無電

二八日一九三〇
一三三 掃砲艦長

(三) 遺文 参謀
(野島 艦長)
(香 雅 艦長)
(馬 公 参 謀)

二八日二〇二五
原根司令官
20 参謀長

護送指揮官ヲ正至丸砲艦長ニ付度ス
芝島協成丸及救難隊共同官指揮ヲ
受クベシ

早朝ヨリ芝島排水ニ努メクルモ一番倉 浸水
ハ漸次増加シ猶次第ニ泥土ニ沈下シ水
上甲板ヲ洗フニ至リ排水作業ヲ中止シ主錨
並ニ中小錨ヲ搬出シテ繫止ニ努メツ、アリ
一七〇〇艦首牆ハ海水ニ没ス艀吃水四米五。
左右ノ傾斜ナン正室ノ浸水一。傾時程
度ナルモ悪化ノ傾向アリ強風長濤遭念
被害箇所ヨリ切断ノ恐ニアリ救難隊ヲ
救難作業見込ナシ
至急職業ヨルベシヲ招聘、要アルモノト認ム

無電

二八日ニ三三〇
一三三號砲艦長

二八日ニ三一八
夏根司令官

二九日ニ三〇〇
一三三號砲艦長

三〇日ニ三〇四
夏根司令官
20F 参 謀

一、二一〇。協成丸汕尾頭着直ニ救援作業ニ着手

二、野島ノ御寫真御勅諭奉安ス

三、機密書類並ニ重要書類保管完ナリ

四、野島ハ危険ニ頻シツ、アリ

一、二〇〇。野島ノ狀況左ノ通り

協成丸及長白山丸工員ノ援助ニ依リ石炭庫ノ補強並ニ漏水箇所ノ遮防ヲナス

潜水ノ結果五十四番ボーム(中央ヨリニボーム)脱ス

近觸底シ被害探知ハ艙ノ動搖ニ依ル泥水ノ

タメ不能ナル石炭庫隔壁ハ漏不昨ヨリ

多少増加シタルニ此ノ候ノ狀態ニテ特ニ

クエル見込

無電

無電

三〇日四〇。
三三時
砲艦長

三〇日四五。
二重根司令官
2CF 参謀

二 船刻々泥土中ニ沈下シ船體ヲ没シ
 一番砲台ヲ洗フニ至ル(七米泥土中ニ沈下)
 尚其ノ傾向止マラス
 海水後甲板ヲ洗フニ至ル機城室ヲ穿入
 シ全没ノ危険アリ前後傾斜七度
 左右傾斜十シ
 三 笠島ハ繫止作業(錨七搬出)ヲ終了
 排水ノタメ待機中
 四 野島ヨリ米麦医療品ヲ搬載ス
 五 明日協成丸ヲシテ石炭ヲ積取ラセル
 予定

一 應急用内材長尺物五十本砂五噸セメント
 五噸清水満水

無電

三日一五時
一三三時
砲艦長

三日一六時
夏根司令官

二 歸途野島ノ載貨石炭ヲ搭載セシムル
豫定

三 目下野島状況石炭庫ノ漏水増大
シタルヲ以テ野島ニ排水中 艦首ノ沈下ハ
悪化ノ傾向ナシ

協成丸石炭積取中(本艦ヨリ作業員
兼差)

四 救難作業ハ浪深船ノ必要アリ至急
御手配ヲ乞フ

機密第二ニ番電ニルロトシテ砂利ハ
急ヲ要スル所 汕頭陸軍部ニストック品アル
由ニ付 當地在泊中ノ福徳丸ニテセメント
五。袋砂利ニ 噸至急御送付ヲ乞フ

無電

<p>三〇日二二〇 正生丸艦長 坂本司令官</p>	<p>三二日二二三〇 三三三號砲艦長</p>
<p>三〇日一八二〇 正生丸艦長 坂本司令官 (汕頭派遣隊 指揮官)</p>	<p>三一日二二〇五 厦根司令官 坂本謀</p>
<p>貴機、右等三番電、依ル應急材料(円材セ ント沙利)六半堆丸ニ搭載三一〇朝厦門 發</p>	<p>一八〇。野島ノ現状、通リ 一箱 沈下ノ恐ト懸念、傾向ナシ ニ石炭庫ノ浸水ハ昨日ト變リナシ。本艦ニテ 排水スル程度馬公工員、應急補強 モ瀬調ニ進歩シツクアリ漏水箇所、セメント ボックスノ外廊工事完了ス 三、芝島ハ繫止用鐵一搬方(總計八)シ燃料 用トシテ石炭五。噸ヲ野島ヨリ積取レリ 四、明一日祐捷丸来着後専門家ハ調査ヲ</p>
<p>無電</p>	<p>無電</p>

三一日
厦門方面
部隊指揮官

待ツテ詳細後報ス

五二日協成丸ヲ厦門ニ向ハシム

(石炭一六噸又野島戰死者遺骸一
塔載)

機密厦門方面部隊命令第一號

厦門方面部隊命令

厦門方面部隊兵力部署ヲ別紙通
改ム(別紙省略)

文書

三 参考

(一) 諸調査事項等

ナシ

(二) 戦訓 ナシ



日	一	二	三	四
所在	廈門港 三六〇	汕頭着 九四〇	汕頭着 八三〇 北二	汕頭着 八三〇 北二
氣象 風向 風速 氣温	曇 北二 一九五 一九〇	曇雨 北三 一八八 一八二	半晴 北二 一六七 一三五	晴 北東四 一四五 一三五
一般任務	支那方面警隊 南支部隊 廈門特別根 據地隊附屬 炮艦正生丸	(C)作戰部 廈門方面部隊 南監視部隊 汕頭津浦附近新 給其基地及同港 以北兄弟嶼是 沿岸補給路 警戒	敵性商船 拿捕或克 掃蕩	
特別任務				
經過摘要	臨戰準備實施不 廈門汕頭間夜間 移動哨戒開始ス	九四〇汕頭入港 一三〇〇火敵三 汕頭附近陸岸 調査ヲ行フ	汕頭港移動哨戒 機密南支部隊命令 第十八師三旅配備 就ク一九二汕頭自 港入港ス 艦隊哨戒第三配備 三連十小隊同時開始ス	汕頭港中道 移動哨戒 汕頭港入港
記事				

六		五
發 燭 石 灣 一 九 〇 〇		燭 石 灣 一 九 五 二 〇 一
	半 晴 北 東 四 一 九 七 二 〇 〇	北 東 四 一 九 五 二 〇 一
	半 晴 北 東 七 一 〇	北 東 四 一 九 五 二 〇 一

<p>〇四三。糧食地安丸入港 〇六〇。三ノ丸入港 〇九〇。水。煤堆入港 二二〇。五ノ於電入港 補給ノク 二六〇。燭石灣警備打合 五ノ於電ノ行ノ一五五 補給船ノ入港 〇九〇。五ノ於電港 於油船ノ入港ノ補給 船安立ノ移動 夕一ノ。燭石灣警備 航哨戒中二三。速浪舟 燈台南東。埋地良 石燭五埋。曳船。燭石 灯ヲ初認シタルモ時即 概其行動不審ナリ 直持近番間セ。英國船 三三三。三ノ上上海丸 香港。向ノ自應答セ。 給油。解。小型汽船ニ 就。洋。細。船。自。以。電 ノ改。直。燭石。向ノ警 導。三。線。付。前。林。ノ 昔。行。辨。後。以。ノ。敬。重。 勵。行。シ。タリ 一。元。華。衛。中。ノ。入。ノ。ナ 九。ノ。安。土。丸。ニ。至。急。燭石 港。進。航。機。備。中。ノ。今。事。</p>	<p>二五二。厦門方面 隊電令第十師受領</p>
---	------------------------------

九	
速濃角 三三〇 三三〇 三三〇	速濃角 一六四二
一〇 三四 三四 三四	
北東八 三四三	

スルヤ島嶼東の村各々編 約千三百米附近より猛烈 に砲撃し、掃射を度々行 ひ、又、指揮官の息を本 艦に撃たれり。此レ又 撃つ如ク、本艦に此レ 砲撃する間、皆巨然ルニ 敵ハ三方向より、砲撃を致 し、加へ、急激ナル其レ中射撃 の音、ノイズアリ、敵艦掃射等ヲ シ、大威嚇を施す。是れ 陸軍砲隊員六名、良ク之 を撃つ。本艦に此レ 間、戦後約三分モシテ、 敵の砲撃は止り 三五五五連隊時、陸軍砲隊 ヲ掃射の音ヲ掃射完 了。他戦隊屋ノ艦八五三 一五三。水雷砲隊、砲英ガ、 一ルウエ、一、自船各長、護 衛ヲ入港、三三、水雷砲 隊、砲英ガ、 速濃角島に於て戦死有。遺 物ヲ、本島、附、又、英、 灯台、見、張、員、ヲ、中、 心、所、外、外、海、軍、長、官、不 足、速濃角、島、砲、台、遺、物、隊 前、移、動、所、有、	
---	--

十一		十	
壱 石湾		壱 石湾	
二、一九七一、二	壱 壱 北東八 一七七一、九	三、一九二、一七、八	壱 壱 北東八 一七七一、九

〇八五安ノ九横付生
 精高搭載ス
 ・五五初八港ノ捕鯨
 ・七五難船ノ入港
 一四四〇今手捕鯨漁舟
 乙監視部隊ニ係連係ノ既
 三無線封止ノ完了今手捕
 船新華蓋船 OZEN
 臨検也ニ封止無線異動
 重要書類主機機却分
 押取船内機密シタルニ
 異動ノシ尚艦長長休
 願ニ休リ KAWANO / MULLER
 今日全權邊見セル間
 石湾ノ自力航行後錦ヲ
 持テ今手捕隊ヲ散ルシ
 船内監視無線封止ノ上
 主機機分解ノ重要書類
 類ト失ニ本艦ニ押取シ今
 拿捕完了ニ異動ノシ
 二二〇抑留船邊ニ作業
 ノ為ニ立島入港
 〇八五ヨリ湯谷湾ニ移
 動哨戒ノ五ノ投錨
 二二五五高ニ艦隊捕鯨
 ノ壱石湾ノ入港
 二二三五厦門初報
 電令第一二種受領

<p>十三</p>	<p>十二</p>	
<p>陽石湾</p>	<p>陽石湾</p>	
<p>二〇 二二一 二〇七</p>	<p>二〇 二二五 二〇一</p>	<p>半晴 曇</p>
<p>曇 曇 北東五 北東九</p>	<p>曇 曇 北東五 北東五</p>	
<p>○三五秋津九江蘇 辦(拿捕船)機載 取外品ヲ搭載入港 九〇後領江蘇辦 機載部分品ヲ未着 ヲ得タルヲ以テ各拿 捕船ニ機載復用且 江蘇辦 船名三〇一六東航 準備ヲ了シシ生糧品 米等ニ既給ヲ終リ全ク 廻航準備ヲ整ヘ 以テ十二日東着ノ四三時 沈没上ノ川離ヲ完了ス</p>	<p>陽石湾内至拿捕 船ノ散置 同湾内移動消滅</p>	<p>二〇二第三艦隊補給 船ヲ沈没 二二一〇又三十九号艦 陽石湾内沈没</p>
<p>一〇五五 厦門方面部隊 電令第三聯隊 領</p>		

十六	十五	十四
一〇〇〇 厦門着	E117-46 N25-251	E115-55 N22-413
半晴 北西四 二〇 一四七	晴 北東五 一七三 一五	曇 北東五 二〇 一八八
晴 東六 二〇 二四	晴 北東七 一六七 七	半晴 北一〇 一七九 九

<p>〇八〇 永照丸が先頭に柳留七隻、後尾三隻、先丸、側方二隻、島、順、湯石、岩、尖、港、厦門、向、護送、途、就、</p>	<p>〇八五 波浪高、風強、爲、E117-46、MOLLER、統行困難、より本艦、單獨護送、任ズ</p>	<p>〇九〇 五、五、拿捕船、E117-46、MOLLER、厦門港内、投錨セシ、直ニ港外、発動、拿捕船護送、向、〇、六、四、五、五、拿捕船團、合同、〇、七、五、五、取、厦門、向、一、〇、〇、</p> <p>取、送、任、務、無、事、終、了、</p> <p>消、水、並、生、糧、品、搭、載、ヲ、行、</p>
<p>支那方面艦隊司令、</p> <p>作、第、七、六、一、號、受、領、</p>		

0548

二十	十九	十八	十七
燭石湾	燭石湾 E117°49'10" N23°-22'	厦門 三〇〇	厦門
一〇 二〇 北東七 曇雨	一 二 北六 曇雨	一 一七 北五 半晴	二 一 北五 晴
四 二 東五 曇雨	三 一 東五 曇雨	六 二〇 東一 半晴	二 一 東三 半晴

燭石湾附近、警戒	厦門燭石湾間、移動哨戒、補給路、警戒	厦門燭石湾間、移動哨戒、補給路、警戒	九五ヨリ石炭塔載、一五ヨリ終了、清水塔載
支那方面艦隊、電令作第七六三、號、受領			

二十四	二十三	二十二	二十一
南澳島	南澳島 E116°-35' N22°-32'	南澳島 E115°-26' N22°-36'	燭石灣
北八 二〇 二一七	晴 北東八 二六六 一五	晴 北西七 一九三 二〇	北八 二〇九 一一
北東六 二〇五 八	半晴 東四 二二〇 一二	晴 南東六 二二五 一六	北東七 二二五 九

<p>三〇〇南澳島三陸 陳日提陸南澳島 冰道球指脚官下達 路島南澳島或陸橋 巡一系上一六三 八四三石採見續付 哨區見ヲ驅取入</p>	<p>燭石灣南澳島間 移動哨戒 補給路、警戒</p>	<p>燭石灣南澳島 間移動哨戒 補給路、警戒</p>	<p>燭石灣附近警戒</p>

二十	二十六	二十五
<p>九五 二五 二五 九五</p> <p>遠波島 連波島 沙尾頭島</p> <p>E116°38'30" N32°-11'</p>	<p>九五 二五 二五 九五</p> <p>神象港島</p> <p>E116°38'30" N32°-59'30"</p>	<p>九五 二五 二五 九五</p> <p>南澳島</p>
<p>北東七 一九五 一四〇</p> <p>曇雲</p>	<p>西六 一八七 二四</p> <p>晴</p>	<p>南東 二〇 一四</p> <p>曇</p>
<p>東二 二六一 一七〇</p> <p>半晴</p>	<p>南東七 二二四 二六</p> <p>晴</p>	<p>南東 二〇 二〇</p> <p>半晴</p>

<p>九四 五五 九四 五五</p> <p>神九外 艦艇 二二五南澳島 戦隊 揚陸島 機 機</p>	<p>九四 五五 九四 五五</p> <p>神九外 艦艇</p>	<p>九四 五五 九四 五五</p> <p>神九外 艦艇</p>
--	--	--

三十	二十九	二十八
紅海灣	紅海灣	紅海灣
北東五	業九 一六四	業九 一六四
北東二	業七 一六六	業九 一六六

<p>特務野島 救難護送 艦トナル 厦門方面 部隊電令 第一四號</p>	
<p>〇三五野島救難作業 多々芝島入港 一三五急動機船ヨリ 帆船ヲ発見直ニ追 撃ス又接近スルニ 判明セルヨリ交戦 投網ス 野島救難護送作業ニ 従事 野島ヨリ御台真御勤 諭ヲ奉命 機密書類ヲ要書類 転載保管ス</p>	<p>〇八〇厦門方面部隊 電令第十五號受領</p>
<p>〇二五長白丸入港 （急命令ヲ受テ乗艦救 作業トス） 一八三五野島ヨリ米 ヲ転載ス。五五終了 三三五場成丸入港野島 救難作業トス</p>	<p>一〇五 厦門方面部隊電令 第一四號受領</p>
<p>一〇〇。協成丸野島ニ補付 ス本艦ヨリ作業員三十名</p>	

	紅海峽		
一六	一四〇 二〇〇	晴 晴	一三三 一八二 二四 六四
	野島 警書成 救難 作業	野島 警書成 救難 作業 不立作 母 母 母 母 母 野島 警書成 救難 作業	

船体

至昭和十六年十二月五日

第十三砲艦隊正生丸

一 概要
二 臨戦準備

(三) 船体附属物、損傷亡失

別紙、如シ

(四) 改造修理新設

(五) 保存手入

艦内哨戒配備、餘暇艦、威容ヲ保持スル事ニ務ム

(六) 附属物、積込積卸

二 参考

川路戰準備

臨戰準備實施概況

一 機務及投務定員
夫那方面艦隊面又部隊廈門根據地隊
定員
士官 特務士官 准士官 下士官 兵 五五
現員
士官二(即隊)准士官二 下士官一九 兵六〇
二 最近出港年
昭和十五年十一月四日
三 乘員、練度
部隊教育計畫、依此、外戰關即應予主眼トシ
漢練スルニ軍紀嚴正ト氣旺盛ニシテ心通、信念
厚ク、各種準備、即應未得ル域ニ達セリ
四 船休、概況
船休期間、夫老朽ナル船目下運航ニ、支障ニモ不慮ノ災
害、發生スル可能ニ充分ニテ、修或改良、以テ、修製スルモ未
シテ、有修善ラ修善不能、付使用、堪テ作戦行動、支障、ハ勿論ナリ

主要作業及工事

作業事名(別令通牒) 年月日 終了日 場所

事故名	前部 左舷 索導 毀損
情況及原因	<p>一情況 十二月八日一五・颶石灣ニ於テ 協成丸横付清水補給中 ニ原因 「フネリ」爲艦動搖起因ス</p>
處置	ナ シ

ロ、船体及附屬物、損傷亡失

兵器

自昭和十六年十二月一日
至昭和十六年十二月三十一日

砲艦正生丸

一 摘要

- (一) 臨戦準備
別紙、通り
- (二) 主要兵器故障、毀損
別紙、通り
- (三) 改造修理新設
ナシ
- (四) 消耗兵器
別紙、通り
- (五) 保存手入
別紙、通り

(1) 正生丸
臨戰準備

砲術科

臨戰準備實施前、狀況 前月報告通り		主要作業 及 工事	
工事内容(訓令通牒又ハ 命令通牒又ハ)	着手 年月日	終了 年月日	場所
一、探照灯及測距儀 外測ノ索具ヲ以テ防護 (南支部隊電令第十六號)	十六十七	十六十八	南支 燭石湾

(四) 主要兵器故障歛損

一 砲術科

<p>事故名</p>	<p>情況及原因</p>	<p>處置</p>
<p>一 銃剣二個及 銃口蓋二個 歛損</p>	<p>昭和十六年十月八日中華民国 廣東省省屬台灣内之於三國籍 不明大型發動機船ヲ詭々拿 捕(自的ヲ以テ冰道ニ本艦隊 機(陸戦隊員)六陸上ヨリ銃撃 ヲ受ケタルニ依リ是ニ交撃ヲ 制止セシメタリ右戦闘ニ依リ 歛損セリ</p>	<p></p>

(4) 主たる消耗兵器

一 砲術科

種	類	数	量
十二種特減裝藥包		—	。
十二種特減彈		—	。
九二式特減信管		—	。
英一號擊發火管		—	。
三八式小銃彈藥包		—	。
一四式拳銃彈藥包		—	。

(一) 保存手入
 (二) 砲術科
 (三) 兵器ノ保存手入並ニ整備ハ哨戒配備ノ餘暇ヲ極力
 利用シ使用ニ遊滞ヲ来ラサシムルヲ為シマシム

一 摘要

機関

自昭和十六年十月一日
至昭和十六年三月三十一日

第十二回艦隊

(一) 臨戦準備

正生九 昭和十五年十一月完了

(二) 重要ナル機関故障歛損

十 三

(三) 機関修理改造新設

十 三

(四) 機関整備及使用

十 三

(五) 機関待機

八節即時待機

四六六時五・分

八節二時間待機

九一時五九分

六、燃料清水其他備品補給

燃料

二 塊炭 一四〇。卷

四 清水

罐水 一三六。卷

飲雜水 五八。卷

8950

<p>戰 隊 十 備 實 施 概 況</p> <p>役 務 及 役 務 定 員</p> <p>支 那 海 面 艦 隊 上 海 方 面 根 據 砲 隊</p>	<p>主 要 作 業 及 事 務</p> <p>一 事 務 名</p> <p>二 實 施 日 期</p> <p>三 實 施 日 期</p> <p>四 實 施 日 期</p>
<p>定 員</p> <p>時 務 士 官 一 下 士 官 五 共 一 五</p> <p>現 員</p> <p>准 士 官 一 下 士 官 六 共 一 八</p> <p>二 未 員 練 度</p> <p>當 隊 教 育 計 画 二 休 外 配 置 教 育</p> <p>二 宣 講 二 置 于 常 時 運 轉 中 練 兵 實 地</p> <p>二 以 予 演 練 二 各 部 共 受 特 種 訓 練</p> <p>業 務 二 通 曉 二 各 種 事 務 二 即 應 出 來</p> <p>得 以 域 二 達 達 二</p>	Empty cells for the table grid

三機関の概況

全リイ機関三支十二

一三機関 完備

但三機関甲七支備三向正骨車等と同偏心
滑中心支備特ニ甚ク尚高圧病心外環
白色合金摩耗甚ク差當り使用上差支
十ニ時機、待次第、調整、鑄鋼修理ヲ要ス

四機関 完備

但三三機関共相當家柄ニ落後内盛ニ尚所
多ク、特ニ流離ノ救前所ニ至、何ニ等テニ耗
乃至三打程度、滑紐ヲ時換テ行テ完全ニ
修整、學入尚彩袖十五年八月定期水圧
試験、結果一三機関使用圧力一二五kg/cm²
一。三機関(變更)使用中

五機関 完備

六補助機関 完備

但三三補助蒸氣管 永年使用、結果家柄
甚ク

四) 概観、故障、欠損

<p style="text-align: center;">十三</p>	<p style="text-align: center;">情 況 及 原 因</p>
	<p style="text-align: center;">處 置</p>

9950

改造修理新設

	工事、内容(前令)通称令令番號 十二
	年月日
	年月日
12	工事施行三三九七 経緯

(三) 機關動作

航 行 程 (哩)	運 轉 時 數 (時-分)	遠 東 運 轉 時 數		原 運 轉 時 數	機 動 月 日	發 着 地 名	機 動 月 日	任 務
		時 分	時 分					
161.0	17-0			13.0	12-2	厦 門		消 費
73.0	10-52			1.0	12-3	汕 頭		公 用
84.0	12-56			1.0	12-4	碇 石		公 用
5.0	0-17			0.0	12-5	碇 石		公 用
52.0	6-33			4.0	12-7	碇 石		消 費
143	3-13			0.0	12-8	連 江		公 用
145	1-05			0.0	12-9	碇 石		公 用
75	1-20			0.0	12-10	碇 石		公 用
35.0	5-37			0.0	12-11	碇 石		公 用
115	1-42			0.0	12-12	碇 石		公 用
8.0	1-03			0.0	12-13	碇 石		公 用
262.0	65-54			0.0	12-16	厦 門		消 費及運送
175.0	24-46			0.0	12-17	碇 石		消 費
210	12-07			0.0	12-23	南 湖		公 用
110	6-42			0.0	12-26	神 泉		公 用
120	1-47			0.0	12-27	汕 頭		公 用
115	2-03			0.0	12-31	汕 頭		消 費及運送
1277.5	185-11							計

昭和十五年一月四日	平均汽水	噸外量(重)	船用			行動			燃料		
			外部		内部	外部		内部	汽機		點火
			噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
1-20	0	0	25	0	15	0	24	0	4.0	0	10.0
1-21	1	0	20	0	15	0	14	0	1.5	0	7.0
1-22	2	2	25	0	25	0	25	0	5.0	0	2.0
1-23	2	1	0	0	0	0	26	0	3.0	0	2.5
1-24	1	1	15	0	15	0	21	1	12.0	0	6.5
1-25	10	1	5	0	1.5	0	1.0	0	6.5	0	1.5
1-26	2	1	10	0	10	0	17	0	6.0	0	1.0
1-27	2	1	5	0	7	0	17	0	5.5	0	1.0
1-28	5	1	25	0	25	0	1.5	0	2.0	0	3.0
1-29	4	1	10	0	10	0	1.8	0	2.0	0	1.0
1-30	5	1	7	0	7	0	0.4	0	6.0	0	1.0
1-31	16	7	265	0	265	0	24.0	0	3.5	0	22.0
1-32	17	3	135	0	135	0	12.0	0	12.0	0	14.0
1-33	18	5	16.0	0	16.0	0	14.4	0	2.0	0	19.0
1-34	13	1	5.0	0	5.0	0	3.1	11.5	2.5	5.0	0
1-35	4	2	13	0	5.3	0	3.5	4.0	0	6.0	0
1-36	17	2	6.3	0	6.8	0	2.3	2.15	0	1.0	0
	168.0	35	772	0	772	0	24.0	17.0	113.5	12.0	71.5

市生機機動艇機機使用時数

機機待 機時数 (時一分)	機動艇機 使用時数 (時一分)		航海中	磯泊中	総行程(哩)	運 航時数(時一分)	期 間	主機機、制式及数
	機動艇 機機数	機機数						
			。	五五八、四九	一、二七七、五	一八五、一一	昭和十六年十二月一日 昭和十六年十二月三十一日	直立三段膨張ピストン機機一基
			。	五五八、四九	一、二七七、五	一八五、一一		計

0220

（小）罐使用時数

小補助機械使用時数

蒸気機				計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計											
式及数	制式及数	針風力量 (口一連形)	号												号	号	号	号	号	号	号	号	号	号	号
一	一	一	三三三												三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
二	二	二	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八	四一八										
三	三	三	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四	七四四										
四	四	四	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八										
計				計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計										

（大）罐使用時数
昭和十六年十一月一日
昭和十六年十二月三十一日
二基

使用時数

使用時数

内却掃
除度救

預度取

（計）
 貸付者出賃水指載

眞水				瀧過額				月	眞水			
計	雜用	飲用	雑水	計	雜用	飲用	雑水		計	雑用	飲用	雑水
三三。	九。	三。	二一。					二二				
二六。	。	七。	一九。					二二				
九八。	二四。	九。	六五。					二二				
二七。	六。	。	二一。					二二				
一八四。	三九。	一九。	一三六。									

2450

燃料潤滑油消費品搭載

車号(車) (番号)	潤滑油 (油)			燃料 (炭)					搭載場所	日
	白絞油	一號内部油	一號外部油	三號石油	二號石油	一號普通	二號塊炭	一號塊炭		
0	0	0	0	0	0	0	計 一三〇〇	計 一三〇〇	厦門	一二一七
							計 一三〇〇	計 一三〇〇		計

燃料潤滑油消費品費額

平常用燃料(元)				行動用燃料(元)				主要燃料庫量	期 間 昭和十六年十一月一日 至 昭和十六年十一月一日
一號 普揮	二號 石油	三號 石油	合 計	汽 機 用	点 火	運 送 用	一號 塊炭		
〃	〃	〃	二五九。	二號 塊炭	一號 塊炭	三號 塊炭	九一五	一〇〇。	
二二四	〃	〃	二五九。	三七。	一一三五	一。	九一五	計	
〃	〃	〃	二五九。	三七。	一一三五	一。	九一五	〃	

0574

系肩 (簿記)			内部 潤滑油			外部 潤滑油					
合計	平常用	行動用	合計	平常用	行動用	合計	白紋油	平常	平常	行動用	
				二號内部麻油	二號内部麻油			二號外部麻油	二號外部麻油	二號外部麻油	二號外部麻油
五〇(一〇)	一五(一〇)	三五(一〇)	九九〇	一五〇	八四〇	一〇〇〇	一八	〇	九〇	〇	九九二
五〇(一〇)	一五(一〇)	三五(一〇)	九九〇	一五〇	八四〇	一〇〇〇	一八	〇	九〇	〇	九九二

機
間待機

期	主機械制式及数	機間待機						
		即時待機(部)	十五分間待機(部)	三十分間待機(部)	一時間待機(部)	二時間待機(部)	機以下	機以下
昭和十六年十二月一日 昭和十六年十二月三日	直立二段衝床(ス)二機 一基	／	／	／	／	／	／	九一五九
		四六六五						四六六五

0576

記
事

工作至昭和十六年十二月一日
昭和十六年十二月一日
第十三砲艦隊

一 摘要

- (一) 臨戰準備 完了
- (二) 修理改造 新設 ナシ
- (三) 工作機械整備使用 整備良シ
- (四) 重要工作機械故障 損 ナシ
- (五) 艦内工作

(金)

機銃架修理
砲架修理

一、六

(木)

舷梯修理	戦死者遺留品箱	戦死者棺桶墓標	濾過水ポンプ臺	内火艇防眩帯修理	内火艇窓硝子修理	眞水タンク蓋製作	錨鎖車削鑲機	クランク油受	ボルト修理	舷梯ボルト
一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一	一、一、一

(三) 正生丸

(1) 艦内工作件数(竣工件数-要求件数)

具本	属金	別種 別科
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	海航
$\frac{0}{1}$	$\frac{1}{1}$	術砲
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	雷水
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	信通
$\frac{4}{4}$	$\frac{3}{3}$	用運
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	行飛
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	備整
$\frac{3}{3}$	$\frac{2}{2}$	械機
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	作工
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	務醫
$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	計主
$\frac{7}{8}$	$\frac{6}{6}$	計

		(イ) 艦内工作機械使用所数(時分)	数工	別鋼	別種	(ロ) 艦内工作工数	
	大 盤 旋	艦内工作機械使用所数(時分)			金		
	小 "		3	冶鍛			属
	大 盤 ルーボ		0	機械			
	小 盤 ルーボ		6.5	上紅			
	盤 削 型		0.5	金板			
	大 盤 スイソ		0	接 熔			
	小 "		0	造 鑄	木		
3-0	機切押負打		0.7	教工研			
20-0	盤磨研在自		14	員人延	具		
	ゴ イ 7		0	水 潜			
	炉 解 熔		5.5	作 船			
	機 接 塔 スガ		8	具 木			
	機 接 塔 機 電		0.8	教工研			
	炉 鋁 銅		1.6	員人延			
	盤 旋 具 木						
	盤 鋸 具 木						
	盤 鉋 具 木						
	器 水 潜						

(二)

艦内工作材料費額

金屬材料

修理 料種	材料 品名	呼称	名品	種別	修理 料種	材料 品名	呼称	名品	種別
0	0	個	兩件銅鑊	銅	0	0	個	甲鋼具道	銅
0	0	個	丁 "		0	0	個	乙 "	
0	0	枚	甲板銅鑊		0	0	個	丙 "	
0	0	枚	乙 "		0	0	個	丁 "	
0	0.5	枚	丙 "		0	0	個	甲鋼棒	
0	0	枚	丁 "		0	0	個	乙 "	
0	0	個	甲棒銅	銅	0	0	個	丙 "	銅
0	0	個	乙 "		0	0	個	丁 "	
0	0	個	丙 "		0	0	個	甲鋼手	
0	0	個	丁 "		0	0	個	乙 "	
0	0	枚	甲板銅		0	0	個	丙 "	
0	0	枚	乙 "		0	0	個	甲鋼形山	
0	0	枚	丙 "		0	0	個	乙 "	
0	0	枚	丁 "		0	0	枚	甲鋼板	
0	0	個	甲鋼形山		0	0	枚	乙 "	
0	0	個	乙 "		0	0	枚	甲鋼板	
0	0	個	丙 "	0	0	枚	乙 "		
0	0	個	丁 "	0	0	枚	丙 "		
0	0	瓦	鐵鍍	鍍	0	0.5	瓦	鍍鋼	鍍
0	0	瓦	鐵鍍		0	0	個	甲棒銅鑊	
0	0.5	瓦	鐵白		0	0.5	個	乙 "	

0582

科修	科理	呼	品	種	科修	科理	呼	品	種
料	理	称	名	別	料	理	称	名	別
					0	0	既	糊付鍍	材
					0	0	既	砂 研	
					0	0	枚	板ナリフ	其 他
					0	0	枚	板鍍銀	
					0	0	既	板鍍	
					0	0	既	鍍	
					0	0	既	鍍白	

三 生 金 属 材 料

修理 科	修理 科	呼称	名品	種別	修理 科	修理 科	呼称	名品	種別
○	/	枚	己板檜	板	○	0	個	甲角板注	角
○	/	枚	庚 "		○	0	個	乙 "	
○	/	枚	辛 "		○	0	個	丙 "	
○	0	枚	甲板板注		○	0	個	丁 "	
○	0	枚	乙 "		○	/	個	甲角杉	枚
○	0	枚	丙 "		○	0	個	乙 "	
○	0	枚	丁 "		○	/	個	丙 "	
○	0	枚	戊 "		○	0	個	丁 "	
○	0	枚	己 "	○	0	個	乙太丸形	丸 枚	
○	0	枚	庚 "	○	0	個	丙 "		
○	0	枚	辛 "	○	0	枚	甲板合	板	
○	0	枚	壬 "	○	0	枚	乙 "		
○	0	枚	癸 "	○	0	枚	甲板檜		
○	0	枚	甲板形	○	0	枚	乙 "		
○	0	枚	乙 "	○	0	枚	板邊		
○	0	枚	丙 "	○	0	枚	板弁		
○	0	枚	丁 "	○	0	枚	甲板檜		
○	0	枚	戊 "	○	0	枚	乙 "		
○	/	枚	己 "	○	0	枚	丙 "	枚	
○	0	枚	庚 "	○	0	枚	丁 "		
○	0	枚	辛 "	○	/	枚	戊 "		

打修 科理	科 品	呼 称	名 品	種 別	打修 科理	科 品	呼 称	名 品	種 別
○	0	枚	乙板摺		○	4	枚	乙板形	
○	0	枚	甲板硝	硝 子 類	○	0	枚	甲板從	
○	1	枚	乙 "		○	0	枚	乙 "	
○	0	枚	丙 "		○	0	枚	丙 "	
○	0.5	粒	甲釘鑄鋼		○	0	枚	丁 "	釘
○	0	粒	乙 "	○	0	枚	甲板鑄		
○	0	粒	甲釘鑄鐵	○	0	枚	乙 "		
○	0	粒	乙 "	○	0	枚	丙 "		
○	0	粒	釘鋼	釘 類	○	0	枚	丁 "	
○	3	粒	釘鐵		○	0	枚	戊 "	
○	0	個	釘鐵		○	0	枚	己 "	
○	0	粒	ス=マ		○	0	枚	庚 "	
○	0	粒	マ=ラ	其 他	○	0	枚	辛 "	
○	0	粒	マ=バ		○	0	枚	壬 "	
○	0	立	北山精木		○	0	枚	癸 "	料
○	0	枚	甲紙硝硝		○	0	枚	甲板硝	
				○	0	枚	乙 "		
				○	0	枚	丙 "		
					○	0	枚	丁 "	
					○	0	枚	戊 "	
					○	0	枚	甲板摺	